

「背きの罪」 詩篇 51:1-8

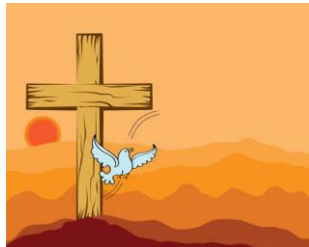
先週の水曜日からレントの期間に入っています。レントとは、イースターまでの日曜日を除く40日間を指し、この期間、イエス様の苦しみと十字架を思い、自らを点検し悔い改めの時を持つクリスチャンは多くいます。今日を含め3回の日曜日のメッセージは、悔い改めの詩篇と呼ばれる詩篇51篇から語りたと思っています。

作者はダビデです。どういう時に書いたかという、1、2節にあるように、ダビデが自分の部下の妻、バト・シェバと通じ、その結果彼女はみごもり、それを隠すために部下ウリヤを前線に送り、戦死するように仕向け、何食わぬ顔でバト・シェバを妻に迎え入れたのです。神様は預言者ナタンを遣わし、ダビデの罪を暴きます。(サムエル下 11)

目をひくのは、「指揮者によって」と最初に記されていることです。なんと、ダビデは自身の悔い改めを、神殿の礼拝で聖歌隊に歌わせるために書いたというのです。このことから、彼が自分の罪の大きさ、醜さを知った上で、そんな自分を赦し受け入れてくださった神の恵みに感謝しているのがわかります。あまりにも大きな恵みを人々に知らせたいと願ったのです。

「神よ、私を憐れんでください。あなたの慈しみによって。深い憐れみによって私の背きの罪を拭ってください。」(3節)

ダビデは神の憐れみを求める以外にすべがなかったのです。なぜなら、ダビデの時代、モーセの律法によると姦淫と殺人は、いけにえをささげて神の赦しを願うことすら許されない大罪でした。その場で石打ちで死刑となったのです。ダビデは、自分が赦されるはずのない、神の憐れみを受ける資格のない者だということを嫌というほどわかっていました。しかし彼は赦されました。彼自身、なぜ赦されたのかわかりませんでした。私たちは二千年前のイエス様の十字架によって、今の私の罪が赦されることを知っていますが、ダビデはまだ十字架を知りません。実は十字架より前に信仰を持って死んだ人たちの罪もすべて、イエス様の十字架によって赦されているのです。ですから、ダビデの罪も彼から三千年後のイエス様の十字架によって赦されたのです。だからこそ、パウロはローマ書で、ダビデを取り上げ、行いではなく信仰によって義と認められた幸いを語っているのです。(ローマ 4章) またエフェソ 2章でも、私たちは罪の中に死んでいった者で、生まれながらに神の怒りを受けるべき者だったのに、神の憐れみによって、イエス様の十字架により、赦されたのだと語っているのです。



「あなたに、ただあなたに私は罪を犯しました。あなたの前に悪事を行いました。あなたの言われることは正しくあなたの裁きに誤りはありません。」(6節)

ここにダビデの罪に対する認識があります。彼は神に対してだけ罪を犯したのでしょうか。いいえ、彼の罪の故に被害を被ったのは、バト・シェバであり、何も知らずに殺された部下ウリヤでしょう。ダビデはそれらの人々のことをどうでもいいと思っているわけではありません。ここでダビデが語っているのは、彼の犯した罪が、神様に対しての罪であると強調しているのです。創世記にはヨセフという人物が出てきます。兄たちにエジプトに奴隷として売られ、エジプトの高官に仕え、それなりの地位にヨセフは上がってきます。そんな時、主人の妻に言い寄られますが、彼ははっきりと「神に罪を犯すことはできない」と誘いをはねのけるのです。私たちは、人を傷つけたということには案外敏感ですが、その行為や思いが神様に対して罪であるということには、とても鈍感です。罪を放っておくということは私の人生を滅びへと向かわせることなのです。ダビデは人の目をごまかすことはできたでしょうが、神の前には隠し通すことはできませんでした。

「私は過ちの内に生まれ、母は罪の内に私を身ごもりました。あなたは心の奥底に真実を望み、隠された所で知恵を授けてくださいます。」(7、8節)

ダビデの心には罪を犯す前から、慢心、傲慢がありました。以前なら先頭に立って戦場に向かっていたのに、この時は王宮にとどまり、夕方まで昼寝をして散歩に出た時に、バト・シェバの水浴を目撃し、欲望に勝つことができず、彼女を召し入れたのです。確かにこの時、彼は神への従いを忘れ、自分中心の考えに満ちていました。行為に走る前に、このような思いが彼のうちにあったのです、その結果として罪を犯したのです。まさに罪人の姿です。罪を犯したから罪人なのではなく、罪人だから罪を犯すのです。(ローマ 7章)

それでも神様はダビデの心に語り続けてくださいました。詩篇 32 では、「私が沈黙していた時には、一日中呻き、骨も朽ち果てました」と、ダビデがこの事実をひた隠しにしていた時の心の状態を告白しています。神がナタンを遣わして罪を暴かれた時、彼はすべてを告白して悔い改めました。律法では赦されるはずのない罪を、神様はイエス様の十字架によって赦してくださいました。まさに神の憐れみによって赦されたのです。私たちも同じ恵みの中に入れられています。私たちが神を否定し、背き続けていた時に、私たちがまだ罪人であった時に、神は私たちを愛して、ひとり子イエス様をこの世に送ってくださいました。そして罪のないお方が、私たちの罪を負って死んでくださいました。まさに「救われたのは恵みによる」のです。そしてその恵みの業はイエス様によってすでに完成しているのです。